

mamacha music column

# Najki's Eye

vol.4 椎名林檎



NAIKI AKIRA  
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後芸能プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員歴任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校の講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイトやプロモーション等で幅広く活躍中。

〈オフィスナイキ ホームページ〉  
<http://office-naiki.com/>

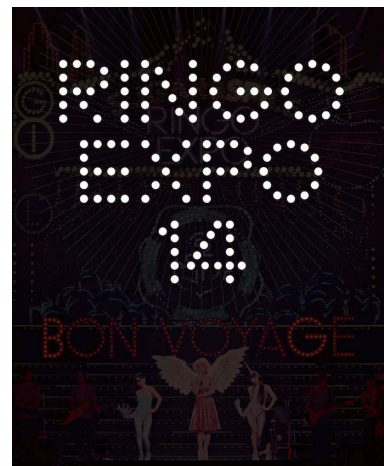
著書



「北の音楽戦士たち」  
(中西出版)

北の「音楽業界」今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で実った北の音楽事情とは。

今月の一枚



「(生)林檎博'14  
一年女の逆襲」

椎名林檎

ユニバーサル・ミュージック  
(2015年3月18日発売 ライブ映像作品)

椎名林檎がこの世に産み落とされたものの、いわゆる作品、詞、曲、パフォーマンスや映像作品など、あらゆる要素が詰め込まれた表現の複合体は膨大なものがある。自身で「実演」するばかりでなく、様々なアーティストに楽曲提供したのもや、歌舞伎や映画音楽も手掛ければ、東京事変のように彼女も含む一つの存在だったりもする。いずれにしてもそのプロデュース力の高さが、作品なり存在なりを育みあるいは花開かせてきたのである。

デビュー当時、早熟な才能に舌を巻いたものだが、年を重ねることに実年齢が追いついて、懐の広さともいえるべきものを感じさせるようになってきた。結婚や出産も経て、人として、アーティストとしての成熟ぶりに目を見張る思いである。この映像作品も、曲ごとにと違う表情を見せるが、

セットに始まりファッションやヘアメイク、ダンス、映像など目に見えるビジュアルだけでなくオーディエンスを含め会場まるごと、椎名林檎の産み出す作品として成立している。強烈なオリジナリティである。常にエンターテイナーとして求められる以上のものを提供しようという気概にあふれている。

あるインタビューで「あと5、6人は子供が欲しい」と語っていたが、これまでの彼女の創作活動を重ね合わせて考えると、子供であれ作品であれ、産み育てることが創造、つまり彼女自身のアイデンティティなのだろう。だからこそ広い意味での彼女の母性が、どんなものを産み育て、送り出していくのか、これから先の音楽業界にもたらす恩恵は計り知れない気がしている。